

# 要介護者等の屋外・屋内移動の現状

要介護者等を対象とするアンケート調査の結果から

研究開発室 水野 映子

## - 要旨 -

要介護者等の移動性を高めることの意義は大きい。本稿では、要介護者等を対象に実施したアンケート調査を用い、移動の現状や問題点を中心に分析した。

外出頻度が1日おき程度以上の人は4割に満たず、1カ月間にまったく家を出なかったという人も1割近くいる。だが、外出頻度を増やしたいと答えた人の割合は全体の約3分の1を占め、外出頻度の低い人で特に高い。

最近1カ月間に外出した人の外出目的は、通院・通所が圧倒的に多い。また外出時の移動手段は、家族などが運転する自動車やタクシーといった他人の運転による自動車が多くを占め、バス・電車などの公共交通機関は非常に少ない。

移動しやすさに対する評価をみると、敷地外では近隣道路で移動しにくいと答えた人が過半数を占めている。また、敷地内で移動しにくい場所の上位には、玄関や玄関からのアプローチが上位にあがっている。

## 1. 調査の概要

高齢化に伴い、介護を必要とする人は年々増えている。それらの人々の移動性を高めることは、寝たきりの予防や、身体機能の維持・回復に役立つと思われる。また、家の外に出て社会とのつながりを持ったり外界の刺激を受けたりする機会が増えれば、ADL（日常生活動作）のみならずQOL（生活の質）の向上も期待できる。

本稿では、筆者が実施した要介護者等<sup>1</sup>を対象とするアンケート調査の中から、移動に関連する質問項目の結果を分析することにより、要介護者等のモビリティの現状と問題点を探る。まず、2章の(1)で家の外での移動について中心的に考察し、(2)で家の中での移動についても補足的に述べる。

アンケート調査は、図表1の要領で実施した。また、回答者の主な属性は図表2の通りである。

なお、このアンケート調査で福祉用具について質問した結果は、拙著「要介護者の

福祉用具入手・利用の現状と課題」(『Life Design Report』2003年7月)で紹介している。

図表1 アンケート調査の概要

調査対象者	在宅の要介護者等 (民間介護サービス事業者のサービス利用者より抽出)
調査票の配布・回収方法	上記事業者のスタッフを通じて配布・回収
回答方法	対象者本人が直接回答、または対象者の家族か上記事業者のスタッフが対象者への聞き取りなどによって回答
調査地域	首都圏を中心とする地域(1都9県)
調査時期	2002年11～12月
配布数	500
有効回収数(率)	473(94.6%)

図表2 回答者の特性

(n=473、単位:%)

<要介護度別>							<性別>			<年齢層別>					
要 支援	要介護					無 回答	男性	女性	無 回答	60歳 未満	60代	70代	80代	90歳 以上	無 回答
	1	2	3	4	5					60歳 未満	60代	70代	80代	90歳 以上	
9.7	26.4	20.7	16.3	13.5	9.1	4.2	38.7	60.9	0.4	4.9	11.6	35.7	35.5	9.3	3.0

## 2. 調査結果

### (1)家の外での移動の実態

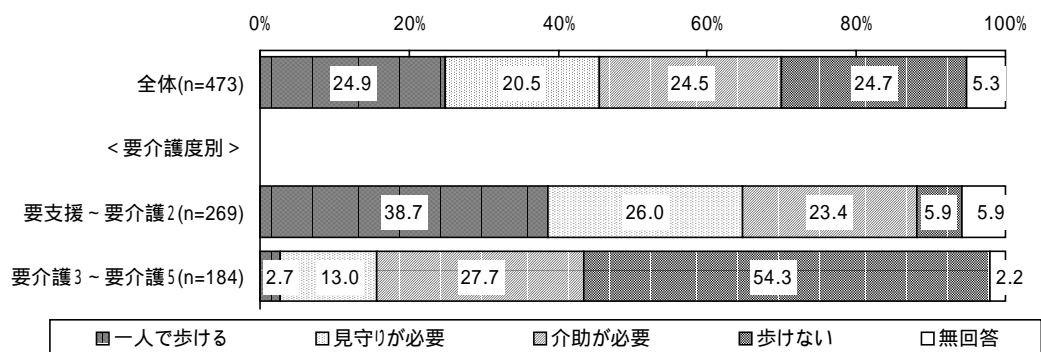
#### 1)家の外での移動自立度

家の外(敷地の外)を歩く際の自立状況を尋ねた。

図表3で全体をみると、「一人で歩ける」(24.9%)、「見守りが必要」(20.5%)、「介助が必要」(24.5%)、「歩けない」(24.7%)がそれぞれ2割強となっている。

要介護度別にみると、要支援～要介護2の人では「一人で歩ける」と答えた割合が4割近いのに対し、要介護3～5の人では、「歩けない」の割合が過半数を占めている。

図表3 家の外での移動自立度(全体、要介護度別)



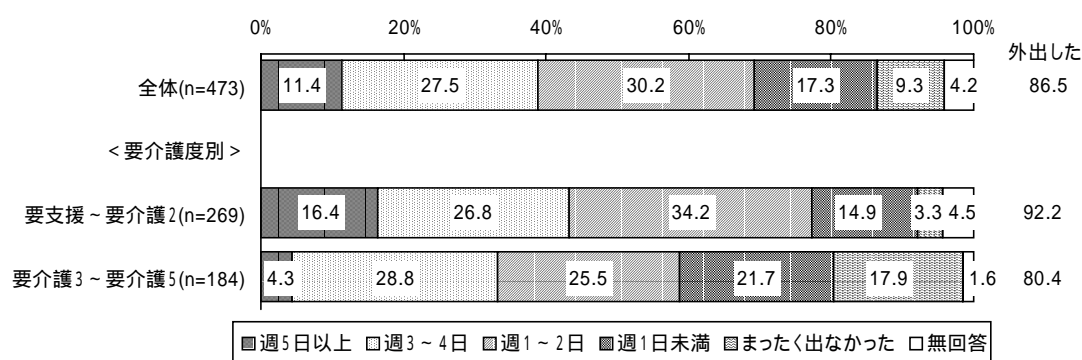
## 2)外出頻度

最近1カ月間に、家の外に平均でどの程度出たかを尋ねた。

図表4で全体をみると、「週1～2日」(30.2%)の割合が最も高い。「週3～4日」(27.5%)と「週5日以上」(11.4%)の合計、すなわち1日おき程度以上外出した人の割合は、4割に満たない。また、家の外に「まったく出なかった」(9.3%)という人も1割近くいる。

要介護度別にみると、要支援～要介護2の人よりも要介護3～5の人の方が全体的に外出頻度は低い。家の外に「まったく出なかった」割合は、要支援～要介護2の人では3.3%に過ぎないのに対し、要介護3～5の人では17.9%にものぼっている。

図表4 最近1カ月間の外出頻度(全体、要介護度別)



注：外出した割合は、「週5日以上」「週3～4日」「週1～2日」「週1日未満」の合計

## 3)外出目的

前問で最近1カ月間に外出した人(外出頻度が「週1日未満」～「週5日以上」であった人)に対し、その目的を複数回答で尋ねた。

図表5で全体をみると、「通院・通所」(83.1%)が群を抜いており、「散歩」(34.2%)、「買い物」(25.9%)が続く。他の外出目的は、いずれも1割に満たない。

要介護度別にみると、「通院・通所」の割合は要介護3～5の人の方が高いが、それ以外の目的は要支援～要介護2の人の方が高い。特に、「買い物」「散歩」の目的で外出した割合の要介護度によるポイント差は、非常に大きくなっている。

なお、「通院・通所」の目的でしか外出していない人の割合は、全体では44.0%、要支援～要介護2の人では33.1%、要介護3～5の人では64.9%であった。

## 4)外出時の移動手段

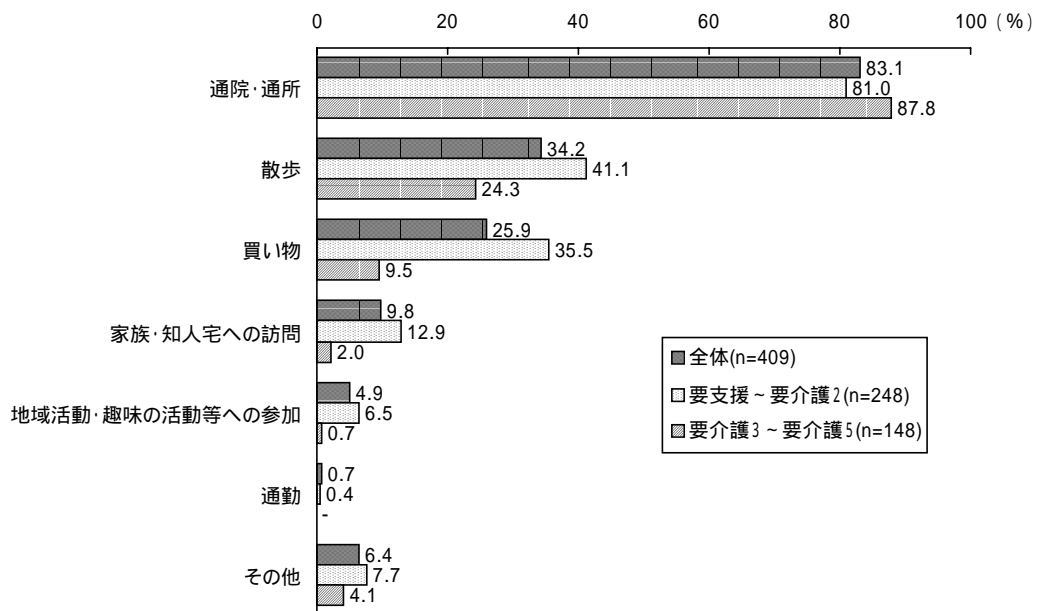
前問と同じく最近1カ月間に外出した人に対し、使った移動手段を複数回答で尋ねた。

図表6で全体をみると、「家族などが運転する自動車」(53.8%)が最も高く、次に

「タクシー」(32.3%)となっている。他の人が運転する自動車が主な移動手段であることがわかる。一方、「バス」(10.3%)、「電車・地下鉄」(4.4%)といった公共交通機関や、図表には示していないが「自分が運転する自動車」(2.9%)、「自転車」(2.9%)、「原付・オートバイ」(0.2%)といった自分で運転する移動手段を利用した割合は極めて低い。

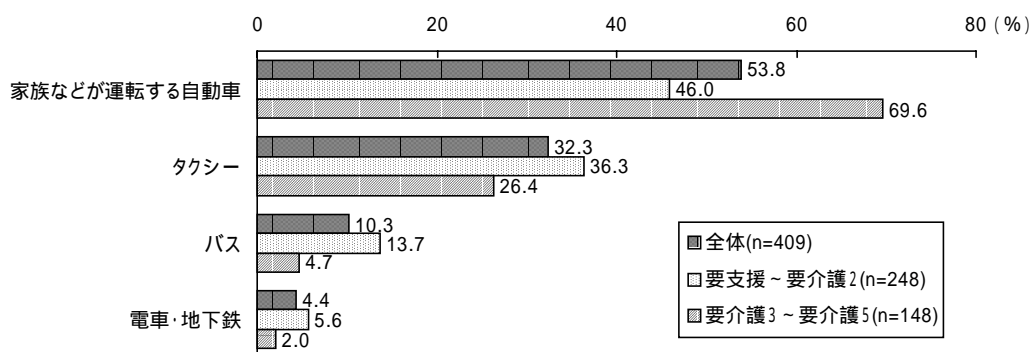
要介護度別にみると、「家族などが運転する自動車」を利用した割合は要介護3～5の人の方がかなり高く、その他の移動手段を利用した割合は要支援～要介護2の人の方が高い。

図表5 最近1カ月間の外出目的＜複数回答＞(全体、要介護度別)



注：回答者は、最近1カ月間に外出した人

図表6 最近1カ月間の外出時の移動手段＜複数回答＞(全体、要介護度別)



注1：回答者は、最近1カ月間に外出した人

注2：「自分が運転する自動車」「自転車」「原付・オートバイ」「その他の移動手段」「特になし」の結果は省略

## 5)外出意向

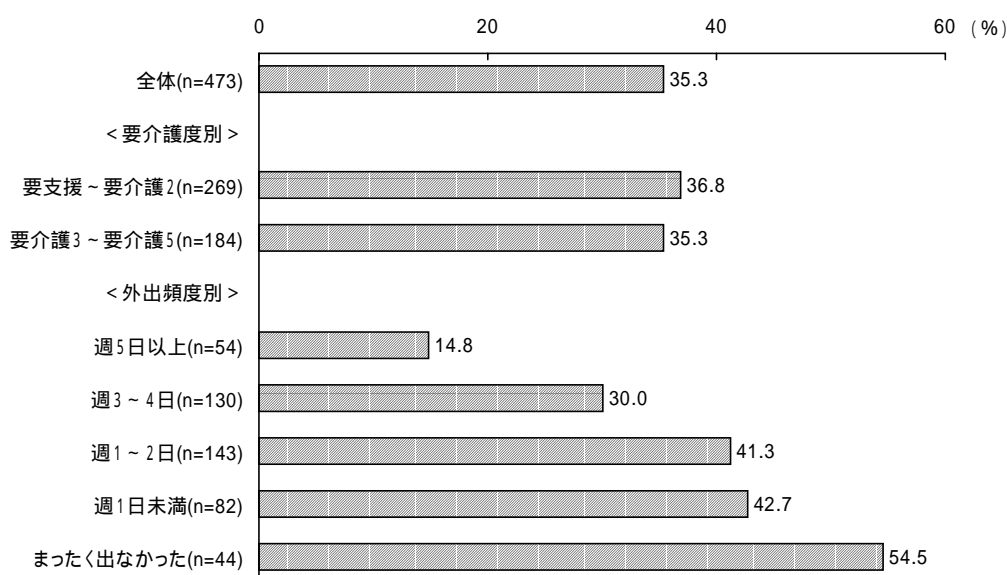
全員に対し、外出頻度を今よりもっと増やしたいと思うかどうかを尋ねた。図表7には「今よりも増やしたい」と答えた人の割合を示す。

全体をみると、「今よりも増やしたい」と答えた割合は、35.3%となっている。また、図表には示していないが、「今のままでよい」とする人は58.4%であり、「今より減らしたい」という人はわずか1.1%である。

要介護度別にみると、要支援～要介護2の人と要介護3～5の人との間には、ほとんど差がない。

外出頻度別にみると、外出頻度の低い人の方が、今より外出頻度を増やしたいと答えた人の割合が高い。特に、家の外に「まったく出なかった」人では過半数が、外出頻度が週2日程度以下の人では4割以上が外出頻度を今より増やしたいと答えている。

図表7 外出頻度を増やしたいと答えた人の割合(全体、要介護度別、外出頻度別)



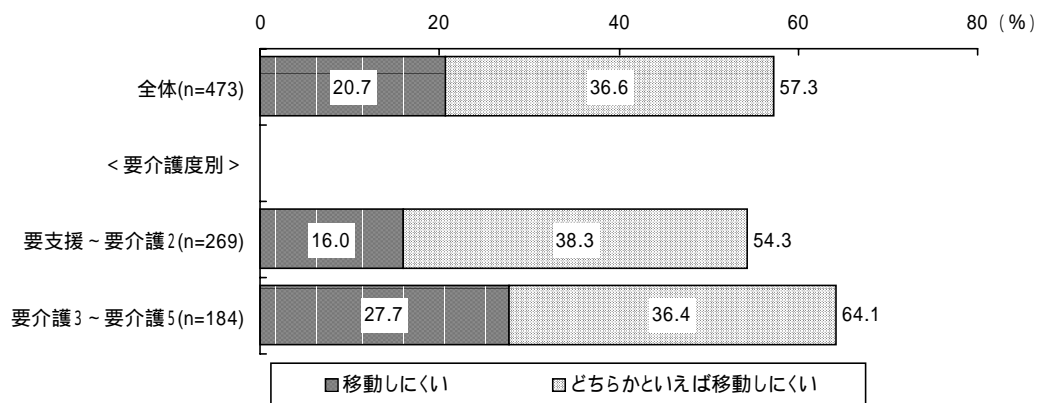
## 6)家の外での移動しにくさ

家の近辺の道路での移動しにくさを尋ねた。図表8には、「移動しにくい」または「どちらかといえば移動しにくい」と答えた人の割合を示す。

全体をみると、「移動しにくい」(20.7%)と「どちらかといえば移動しにくい」(36.6%)の合計は、57.3%と半数を超えている。一方、図表にはないが「どちらかといえば移動しやすい」は19.5%、「移動しやすい」は14.6%であった。

要介護度別にみると、「移動しにくい」と「どちらかといえば移動しにくい」の合計は、要支援～要介護2の人では54.3%であるのに対し、要介護3～5の人では64.1%と、10ポイント近い差がある。

図表8 家の近辺の道路での移動しにくさ(全体、要介護度別)



## (2)家の中での移動の実態

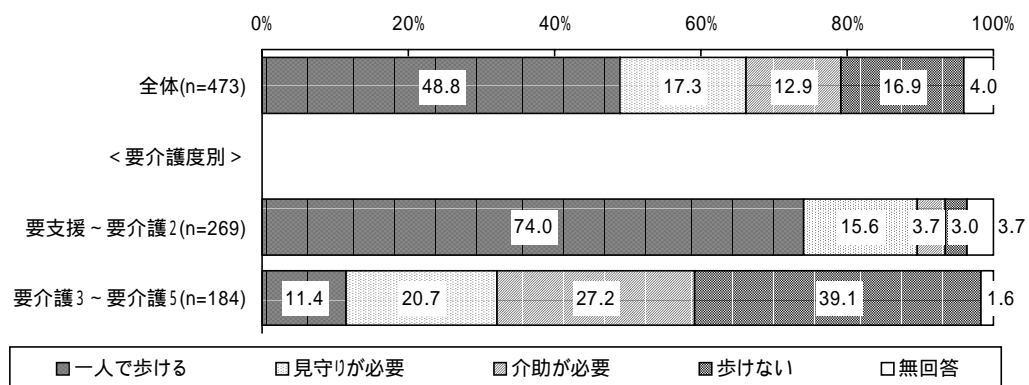
### 1)家の中での移動自立度

家の外の場合と同様に、家の中を歩く際の自立状況を尋ねた。

図表9で全体をみると、「一人で歩ける」(48.8%)と答えた人が約半分を占める。「見守りが必要」(17.3%)、「介助が必要」(12.9%)、「歩けない」(16.9%)は、それぞれ10%台である。家の外での移動に比べると、家の中での移動の自立度の方が全体的に高い。

要介護度別にみると、要支援～要介護2の人では約4分の3が「一人で歩ける」と答えているのに対し、要介護3～5の人では「歩けない」が4割近くを占めている。

図表9 家の中での移動自立度(全体、要介護度別)



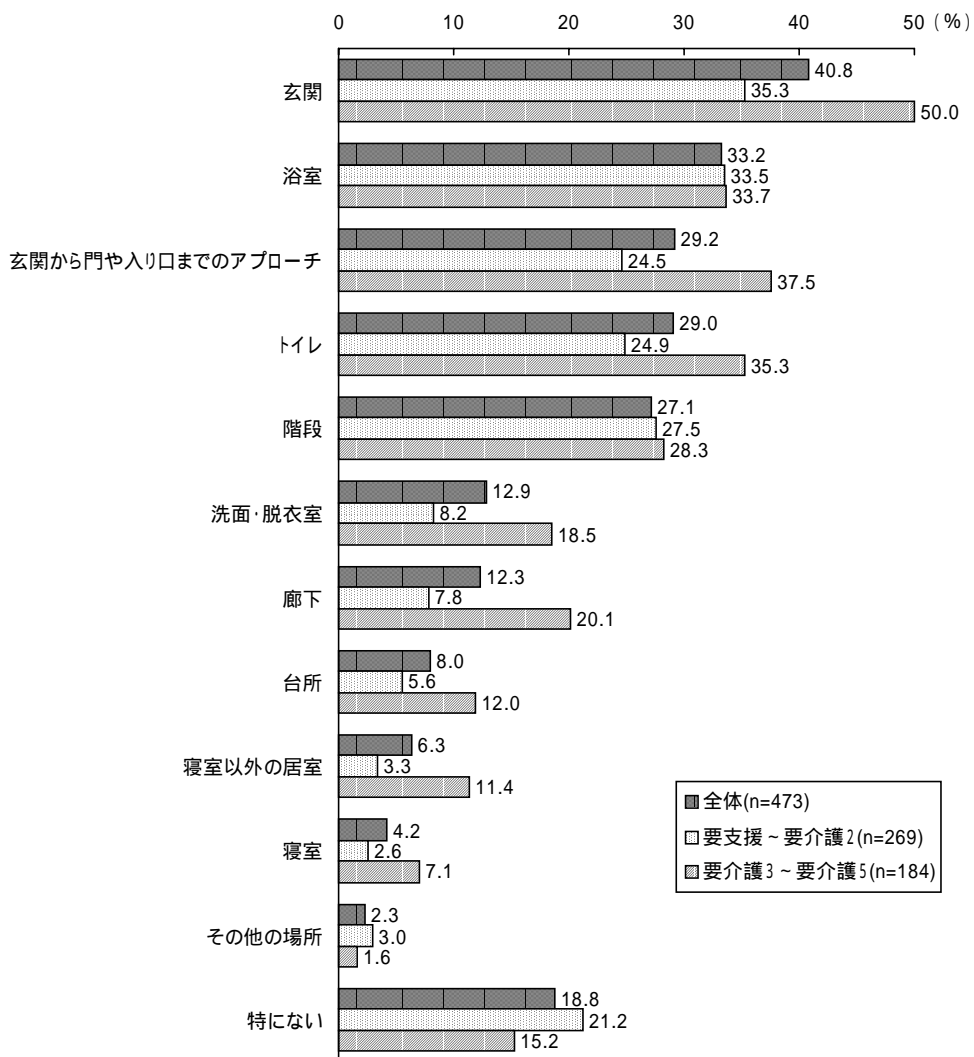
2)家の中での移動しにくさ

家の中（庭などを含めた敷地内）で、移動や出入りをしにくいと感じる場所を複数回答で尋ねた。

図表10で全体をみると、回答した人の割合は、高い順に「玄関」（40.8%）、「浴室」（33.2%）、「玄関から門や入り口までのアプローチ」（29.2%）、「トイレ」（29.0%）、「階段」（27.1%）となっている。1位と3位は、屋内と屋外の出入りが困難であることを示している。「特にない」は18.8%に過ぎない。

要介護度別にみると、ほとんどの場所において、要介護度の低い人よりも高い人の方が、移動・出入りをしにくいと感じる割合は高い。特に、「玄関」「玄関から門や入り口までのアプローチ」「トイレ」「洗面・脱衣室」「廊下」では、両者の間に10ポイント以上の差がある。

図表10 敷地内で移動・出入りをしにくい場所＜複数回答＞（全体、要介護度別）



### 3. まとめ

全般的に要介護者等の外出頻度はあまり高いとはいえない。1日おき程度以上外出した人は4割に満たず、1カ月間にまったく外出しなかった人も1割近くを占める。

しかし、外出頻度の少ない人ほどもっと外に出たいという意向を持っている。このことは、要介護者等の要望を満たすという意味でも、外出機会の増加が重要であることを示唆している。

では、要介護者等は、どこへどのように出かけているのであろうか。外出の目的をみると、通院・通所といういわば生活必需的な行動が8割強と圧倒的に多く、2位の散歩、3位の買い物とは大きな差がある。最近1カ月間に通院・通所しかしていない人も約4割を占める。病院や介護関連施設以外にも、要介護者等が容易に出かけられ、かつ楽しめる場所が必要と思われる。

また、外出時の移動手段は、家族などが運転する自動車か、あるいはタクシーといった他人の運転による自動車が多くを占める。バス・電車などの公共交通機関はほとんど利用されていない。このことは、自動車の移動手段を確保しにくい人、例えば自動車を持っている家族が近くにいない人や、経済的・身体的・地理的にタクシーを利用しにくい人などの外出が制限されやすいことを示唆する。要介護者等のための自動車交通サービス、例えば福祉タクシーや介護タクシー、移送サービスなどの充実を図るとともに、利用しやすい公共交通機関を整備することが必要であろう。また、家の周辺道路での移動がしにくいという意見も半数を超えていることから、道路環境の改善も求められる。

一方、敷地内では、移動しにくい場所として、玄関や玄関から門などへのアプローチが上位にあがっている。家の中と外の「つなぎ目」の部分が不便であることも、要介護者等が外に出にくい一因であると考えられる。住宅改修や福祉用具（例えば、スロープ、段差解消機など）の導入に際しても、外出しやすさへの配慮は重要な課題であるといえる。

以上は全体の結果であるが、要介護度別にみると、当然ではあるが要介護度の高い人ではさらに外出頻度、外出目的、外出手段ともに限定される傾向がみられた。また、家の周辺や敷地内での移動がしにくいという回答も要介護度の高い人で特に多かった。要介護度の進行にともなって「寝たきり（寝かせきり）」や「閉じこもり」も進行させてしまうのを避けるためには、要介護度の高い人の外出機会増加への対策にも重点を置くべきであろう。

（研究開発室 副主任研究員）

#### 【注釈】

\*1 本稿では、介護保険で要支援または要介護と認定された人を合わせて「要介護者等」と表記した。